

2019年7月28日

文責：和泉 究

■参加者（敬称略）：安東，五十里，和泉，伊藤，河野，川村，佐藤（修），佐藤（訓），田中，中村，林田，松尾，山田

■合意・決定事項

- 各分野（赤外線・X線・重力波）それぞれにおいて、さらなる目的の一本化・簡素化を目指す。
- 2週間程度を目処に提案方針を決定させ、提案書類初稿を書き始める態勢を整える。
- スケジュール調整が容易ではないため、次回検討会の日程は現時点では決めず、メールベースでの議論により提案方針の収束を図る。

■A/I

- 各グループ（赤外線・X線・重力波）は一本化・簡素化された目的・案をFFチームにインプットする[安東・林田・松尾；1週間以内]
- FFチームは各グループからのインプットをもとに再度可能な範囲でシステム検討を行い、大まかにミッション成立性を判断する[五十里・伊藤・河野；8月12日まで]
- FFチームが記入したエクセルファイルに記入間違い・修正点がないか確認をする[林田；1週間以内]
- 衛星計画の資金獲得の妙に関して中須賀さんから川村さんがいろいろ聞くというミーティングを別途アレンジする[川村，五十里，次回検討会まで]

■継続が必要な議論

- 模擬衛星（Simulated satellite）は工学的観点から見てどのような利益があるのか再度慎重に検討する必要がある。

## ■発表

- X線干渉計に関して情報更新（林田）
- FFチームからの検討（伊藤）
- FFチームからの検討（五十里）
- 学術変革領域の方針に関して（川村）

## ■その他、議論など

- X線干渉計はFF形態を利用した形式のほうが提案全体との親和性が高いという意見が出た（川村）。
- ファイバ遅延線を用いた場合でも赤外線干渉計において干渉縞は依然として取得できるということが確認された（松尾）。
- ファイバを利用した場合でも分光情報を用いることで、像回復ができる可能性が指摘された（松尾）。
- 波長以下の精度で干渉計制御を行った場合 null干渉計による高コントラスト観測（惑星撮像に強力）が可能となることが指摘された（松尾）。
- ソーラーパネルの取り付け方式は、パドル型ではなくボディマウントのほうがFFには好ましいという旨の意見交換がされた（五十里・安東）。
- JAXA相乗りで超小型衛星を打ち上げる場合、中須賀研などでのこれまでの実績に関わらず（質量68-70kg）、厳格な質量審査があるので注意すべきとの指摘がされた（河野）。